

2023年8月13日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

出エジプト記 20 : 1~17

マタイによる福音書 22 : 34~40

「十戒～神さまの言葉～」(ハイデルベルク信仰問答 第三部 十戒について 問 92~93)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】詩編 29 : 2

【讃美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【詩編交読】詩編 32 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 12 「とうときわが神よ」

【祈祷】

【聖書】出エジプト記 20 : 1~17、マタイによる福音書 22 : 34~40

【説教】「十戒～神さまの言葉～」

<感謝の生活のために>

主の日の礼拝では、毎週『ハイデルベルク信仰問答』から示された聖書の御言葉を聞いています。今日からは、第三部の中の、「十戒について」というところに入ります。

これまで『ハイデルベルク信仰問答』では、第一部で、神さまに背いたわたしたち人間の罪の悲惨さを。そして第二部で、そのようなわたしたちを、神の御子イエスさまが、ご自分の十字架と復活によって救って下さった、ということを知って来ました。

そして第三部は、救われたわたしたちが、この神さまの救いの恵みに感謝して、善い業を行い、生活のすべてで神さまの栄光を現わしていくように、と教えています。その、神さまに喜ばれる生活を導くものとして、これから「十戒」と「主の祈り」を学んでいくのです。

さて、この神さまに喜ばれる「善い業」を考える時。わたしたちは、これが、自分の救いのためには、何の役にも立たないのだ、ということを知って来ました。

わたしたちは、何か善い業を行うことや、徳を積んだりすることで、自分の罪を埋め合わせたり、償ったりすることは出来ないからです。神さまに背いたわたしたちの罪は、あまりにも重すぎて、自分で自分の罪を償うことは、もう何をしても不可能だったのです。

しかし、わたしたちの造り主であり、わたしたちを愛し、憐れんで下さる父なる神さまは、ご自分の御子であるイエスさまを、わたしたちのために遣わし下さり、この方にわたしたちが自分で担いきれない罪を、すべて背負わせられました。

そしてイエスさまは、罪人であるわたしたちの身代わりとなって下さり、わたしたちの代わりに裁きを受け、わたしたちのために、御自分が十字架に付けられ、苦しんで死なれたのです。そうして、わたしたちの罪を、すべて贖って下さったのです。

ですから、わたしたちは、ただ、このイエスさまの救いの御業を信じ、ただ、この救いを自分のものとして受け入れるだけで、罪の赦しが与えられたのです。自分で何をするとも出来ないわたしたちのために、イエスさまがすべてを成し遂げて下さったからです。

わたしたちは、こちらからは何を差し出すこともなく、ただ神さまの恵みによって、救いを与えられ、神さまと共に生きる者とされたのです。

ですから、わたしたちは、自分が救われるために、善い行いをする必要はありません。

でも、救いに与った者は、そのいただいた大きな恵みにお応えして、自分のためではなく、神さまのために、自ら喜んで、善い業を行う者となるのです。

その善い業とは、わたしたちが自分で思う善いことや、世間で「善い」と思われている行いのことではありません。善い業とは、神さまが喜ばれる業、神さまの御心に適った行いのことです。それがどのようなことか、ということは、神さまご自身が教えて下さいます。

そして、『ハイデルベルク信仰問答』は、まさに「十戒」に、そのことが示されているのだ、と教えているのです。

つまり、これから聞いていく「十戒」は、わたしたちが、どのようにイエスさまの救いに対して、神さまに感謝すべきか、という、その具体的な方法を示す、わたしたちの信仰生活の「道しるべ」として与えられているのです。

<神の言葉>

さて、そもそも「十戒」というのは、旧約聖書の時代に、神さまからイスラエルの民に与えられたものです。それが、今日読まれた出エジプト記 20 : 1~17 に語られていました。また、もう一か所、申命記 5 章にも「十戒」が出てきます。二つを比べると、一部、文章が違ったりするところもあるのですが、『ハイデルベルク信仰問答』は、出エジプト記の「十戒」の方を、そのまま今日の間 92 のところに採用しています。

また、わたしたちも礼拝で「十戒」を唱和していますが、これは、戒めの部分だけを取り上げた、簡潔なものになっています。

さて、「十戒」は、十の戒め、と書きます。～してはならない、～してはならない、と禁止が繰り返されていて、わたしたちは、「十戒」を、何か物々しい、堅苦しい、窮屈なものに感じているかも知れません。

でも、「十戒」は、冷たい、機械的な戒めではありません。「十戒」は、英語で「Decalogue (デカローグ)」という言い方をされることがあります。これは「十の言葉」という意味です。Deca が 10 という意味で、logue は、ロゴスから来ています。十の言葉。

今日読まれた出エジプト記の 20 章で、「十戒」が、神さまからイスラエルの民に与えられる場面でも、まず最初にこうありました。1 節「神はこれらすべての言葉を告げられた」。

つまり、「十戒」というのは、堅苦しい法律集でも、つまらない規則集でもなくて、神さまが語って下さった、御言葉そのものである。「神の言葉」である、ということです。

わたしたちを造り、罪から救い出し、親しい交わりを結び、いつも共にいて下さる神さまが、わたしたちに語りかけて下さるのです。「わたしと共に生きていくために、あなたたちはこのように歩みなさい」と。そうやって、わたしたちを神さまの許へ導き、歩むべき道を示すために、語りかけて下さった御言葉が、「十戒」です。

ですから、「十戒」に従う、ということは、「神の言葉」に従って生きる、ということ、そのものなのです。

「十戒」は、わたしたちを生かす、神さまの言葉です。わたしたちが、日々の生活の中で、また人生を歩む中で、確かに神さまに従う歩みを選び、決断していくことが出来るように。はっきりと神さまの方に向かって生きる、その方向が分かるように。「十戒」は与えられているのです。

ですから「十戒」は、わたしたちを掟で縛り付け、わたしたちの行動の「自由」を制限して奪い、「不自由」にするために与えられているのでは、決してありません。

わたしたちにとっては、「十戒」がなく、指針がなく、進む方向が分からない方が、とっても「不自由」なのです。

もし、「十戒」という、神さまの方向を示してくれる指針がなければ、わたしたちは、向かう方向、目指すべき方向が分からなくなり、暗闇の中を右往左往するしかありません。

でも、暗闇の中にいたとしても、そこに導きの光が射しこみ、進むべき方向さえはっきりと分かるなら。わたしたちは、どのような状況にあっても、その光のもとで、行くべき道を考え、選びとり、決断し、自分の足で、向かうべきところへ歩いて行くことができるのです。そんな、本当の自由を生きる事が出来るのです。

ですから、「十戒」は、わたしたちにとって、「自由の道しるべ」とも言われるのです。

<二枚の板の十戒>

さて、「十戒」は、出エジプト記の中で、二枚の板に書かれた、と記述されています。

それで、古来教会では、前半と後半で、二つの内容に分かれていると考えられてきました。

実はこの分け方については、色々教派や時代によって違いがあります。『ハイデルベルク信仰問答』は、今日の間 93 にあったように、第一戒から第四戒までを、前半。そして、第五戒から第十戒までを、後半としています。間 93 にはこうありました。

問 93 これらの戒めはどのように分かれていますか。

答 二枚の板に分かれています。その第一は、四つの戒めにおいて、わたしたちが神に対して、どのようにふるまうべきかを教え、第二は、六つの戒めにおいて、わたしたちが隣人に対してどのような義務を負っているかを教えています。

「十戒」の前半は、わたしたちが神に対して、どのようにふるまうべきか。後半は、わたしたちが隣人に対してどのような義務を負っているかを教えている、とあります。

これは、みなさん、ピンと来られたでしょうか。今日読まれた、新約聖書のマタイによる福音書 22 章で、イエスさまが語られたことです。

36 節以下を、もう一度お読みします。律法の専門家が、イエスさまに尋ねました。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

律法全体と預言者、というのは、「十戒」を含む、旧約聖書の神さまの教えのすべてを指しています。イエスさまは、すべての律法は、「神である主を愛しなさい」、そして、「隣人を自分のように愛しなさい」という、二つの掟に要約できるのだ、と仰ったのです。

「十戒」の前半は、「わたしたちが神に対して、どのようにふるまうべきか」。これは、「あなたの神である主を愛しなさい」ということが教えられます。そして、「十戒」の後半は、「わたしたちが隣人に対してどのような義務を負っているか」。これはつまり、「隣人を自分のように愛しなさい」ということが教えられているのです。

わたしたちの生活や人生の指針、向かうべき方向は、「神さまを愛すること」と、「隣人を自分のように愛すること」の二つです。わたしたちは、何をするにしても、このことを目指して、すべてのことを考え、選び、決断し、行動するのです。

それが、神さまが喜んで下さることであり、神さまの御心に適ったことであり、わたしたちが為すことができる「善い行い」なのです。

「十戒」は、この「神さまを愛すること」「隣人を自分のように愛すること」を、十の言葉で具体的に示すべきことを表しているのです。

<新しくされて>

さて、わたしたちは、『ハイデルベルク信仰問答』で、一度このイエスさまの、二つの掟を聞いています。それは、どこだったか、覚えておられますか。

それは、第一部「人間の悲惨さについて」が語られているところの、最初の方に登場しました。問3～問5までのところですが、読んでみますのでお聞きください。

問3 何によって、あなたは自分の悲惨さに気づきますか。

答 神の律法によってです。

問4 神の律法は、わたしたちに何を求めていますか。

答 それについてキリストは、マタイによる福音書 22 章で、次のように要約して教えておられます。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし（、力を尽くし）て、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

問5 あなたはこれらすべてのことを完全に行うことができますか。

答 できません。なぜなら、わたしは神と自分の隣人を憎む方へと、生まれつき心が傾いているからです。

第一部では、「神の律法」によって明らかにされる、わたしたちの罪と、その悲惨さが告げられていました。

「神の律法」、つまり神さまの御言葉は、わたしたちに、「神さまを愛すること」「隣人を自分のように愛すること」を求めておられます。

しかし、わたしたちはそれに従うことが出来ない者である。神さまを愛せない。隣人を愛せない。神と自分の隣人を憎む方へと、もう生まれつきという他ないほど、心が傾いてしまっていて、自分ではどうすることも出来ない。そんな罪の悲惨の中に、わたしたちがいる。

第一部では、そのことに気付かせるものとして、このイエスさまの二つの掟が語られていたのです。

神さまの律法は、罪に陥っていたわたしたちにとっては、神さまが求めておられることに従うことが出来ず、神さまから離れて、あらゆる方向へ、滅びへ、悲惨へ向かってしまっている。そんなわたしたちの惨めな罪の姿を、明らかにするものでした。

しかし、第三部では、この「神の律法」、「十戒」に示されている、イエスさまの二つの掟は、第一部とは、まったく違うものとして、わたしたちの前に置かれています。

「神さまを愛しなさい」。「隣人を自分のように愛しなさい」。これは、わたしたちがそのように生きる者とされたのだ、そのように生きることが出来るのだ、ということを示すものとして置かれているのです。

罪を赦され、間違ったあらゆる方向から、神さまの御許へと帰ってきたあなたは、神さまを愛して、神さまと共に生きることが出来る。隣人を自分のように愛して、隣人と共に生きることが出来る。神の言葉に従う者として、神の栄光を現わす者として、あなたはその毎日を、生活を、人生を、神さまに向かって、歩んでいくことが出来る。

そのような、恵みの生き方へと導いて下さるものとして、今や「神の律法」は、わたしたちの前に置かれているのです。

なぜ、第一部と第三部の間で、「神の律法」が、イエスさまの二つの掟が、わたしたちにとって、こんなにガラッと意味を変えたのでしょうか。

…それは、イエスさまが、わたしたちを、変えて下さったからです。

イエスさまが、ご自分の十字架の死によって、わたしたちを、神さまに背く罪から解放して下さいました。イエスさまが、ご自分の復活によって、わたしたちに神さまと共に生きる、新しい命を与えて下さいました。

そしてイエスさまは、わたしたちとご自分を一つに結び合わせ、神さまに背く罪人であったわたしを、罪赦された神の子へ。自己中心的だったわたしたちを、神さまに従って生きる者へ。神さまと隣人を憎むことしか出来なかったわたしたちを、神さまを愛し、隣人を自分のように愛して生きる者へと、新しく変えて下さったのです。

わたしたちが、神さまの御言葉に従うことが出来るのは、わたしの救い主である、神の御子イエスさまが、わたしと共にいて下さるからなのです。

…わたしたちは、イエスさまの救いに与ってもなお、この世で生きている限りは、どうにもならない弱さを抱え、誘惑に翻弄され、自己中心的な思いを抱き、罪が絡みついてきます。

洗礼を受けた者であっても、今ここで、イエスさまの掟にわたしは従えている、100%神さまを心から愛し、隣人を愛している、と言える者は、一人もいないと思います。

未だに、イエスさまの二つの掟も「十戒」も、やはりわたしに、罪の現実を突きつけているように思えるかも知れません。

でも、わたしたちは、もう罪の中でうずくまって動けないわたしではないのです。

わたしたちには、わたしの罪の重荷を、すべて担って下さるイエスさまが、今も、これからも、永遠に、わたしと共にいてくださいます。父なる神さまに完全に従われて、罪の赦しを与えて下さった十字架のイエスさまが、わたしとずっと共にいて下さるのです。

この方がわたしの主となって、わたしの人生を担い、わたしを導いていって下さるのです。

そして、初めから最後まで、終わりの日まで、わたしを、その救いの御手の中において下さる。わたしの罪を、この方が最後まで、ご自分の清さで覆ってくださり、わたしを、神さまの御前に立つ者として下さる。

この、イエスさまにある、救いの確信と、心からの信頼の中で。神さまの愛の中で、赦しの中で、恵みの中で。わたしたちは、感謝をもって、喜びをもって、神さまを愛し、また隣人を自分のように愛していくことが出来る。生活のすべてを、神さまに向けていくことが出来る。「十戒」に、神さまの御言葉に、心から、従っていくことが出来るのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

あなたは、わたしたちに、御言葉を語りかけて下さり、あなたに向かって生きるための道しるべを与えて下さいました。あなたの御言葉に従う歩みこそ、わたしたちにとって、もっとも平安で、もっとも幸いで、もっとも喜びに満ちた歩みです。

どうか、御子イエスさまによって、背いた罪を赦され、新しくされたわたしたちが、心からの感謝と悔い改めをもって、あなたの御心に従って、歩んでいくことが出来ますように。

どうか、わたしたちの救い主イエスさまが、いつも共にいて下さり、わたしたちに与えられた信仰の歩みを、あなたの栄光を現わすものとして、最後まで歩み通すことが出来るよう、支え、守り、導いて下さいますように。

このお祈りを、わたしたちの救い主イエスさまの御名によって祈ります。アーメン

【讚美歌】 536 「み恵みを受けた今は」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】 【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】 【祈祷】

【讚美歌】 26 「グローリア、グローリア、グローリア」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン